

甲賀市信楽町神山水害履歴マップ

(平成28年7月19日 甲賀市信楽町神山会館で行った聞き取り調査に基づき作成)

その①

地域特性 ・ 昭和34年9月26日~27日 伊勢湾台風 ・ 平成11年 水害 ・ 平成25年9月16日 台風18号

作成 立命館大学 防災まちづくり研究室 (甲賀市都市計画基本地図上に作成)



(平成25年)
大戸川を復旧したことにより、市場周辺の
浸水範囲が多羅尾豪雨のときよりも広がった

(平成25年)
市場ではほとんどの家屋が浸水し、1.5mの深さまで
浸水した家屋もあった。かさ上げを行っていた家屋では、
床下浸水程度の被害にとどまった

昭和34年 伊勢湾台風

[当日の様子]
○消防団の出動はなく、親戚同士で助け合っていた。
○神山地区では風よりも雨が強かった。

[被害]
○多羅尾豪雨を受けて、建て替えの際に地上げを行った家には、
浸水はなかった。
○釜ノ谷の土砂崩れにより、水路と道路が土砂で埋まった。
○大戸川は氾濫しなかったが、堤内地に流れ込んだ谷水の氾濫が市場、
北出で起こった。

[避難]
○垂直避難がほとんどであり、水平避難はしていなかった。

地域特性

[地形と水害・土砂災害被害の特性]

- 神山地区を含む信楽盆地は分水嶺と分水嶺の間が狭く、豪雨の際には短時間で雨水が河川に集まる。
- 周辺の谷(八郎谷、釜ノ谷、入ヶ谷、柿ヶ谷)では、以前長石を採掘していたため、大雨時に土砂崩れが発生しやすい。(※八郎谷は北新田(マップ外)にある)
- 神山地区では、大戸川北流、南川、大戸川の三つの川が合流している。
- 現在の大戸川の堤防は、昭和28年多羅尾豪雨後の復旧時、周辺に堆積した土を固められて作られたものである。この堤防のおかげで大戸川が決壊することはなくなったが、他の川から溢れた水や山水などを大戸川に排水できる箇所が少なくなり、市場、北出周辺では大雨が降るたびに度々浸水している。

[警戒]

- 大雨時は、神山地区だけではなく上流の多羅尾方面の雨量も確認する。

[避難]

- 水害時には自宅2階へ垂直避難を行った人がほとんどであった。指定避難所である神山会館に避難する人もいた。
- 以前は城山陶器を避難所にしてきたが、現在ではしていない。

[水防活動]

- 多羅尾豪雨以前の豪雨では、竹流しを行い土手が削られるのを防いでいた。
- 水防活動は消防団や青年団が行っていたが、火災に関する活動が多く、水害に関する活動は少なかった。

平成25年 台風18号

[避難]

- 市場の方が2世帯、堀畑の方が1世帯神山会館へ避難した。
- 消防団が、浸水しそうな家の玄関先に土嚢積みを行った。

(平成11年)
当時の水門

平成11年 水害

- 神山地区の西側で、水路の水が溢れた。



水路の氾濫写真 (Nさん提供)

